



613-002336 Rev.D 230428

10ギガビットイーサネット・インテリジェントスイッチ

CentreCOM[®] Secure HUB XS900MXシリーズ

取扱説明書

CentreCOM® Secure HUB XS900MX シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意ください。

安全のために

必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源ケーブル・プラグを抜き、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

取り付け・取り外しのときはコネクター・回路部分にさわらない

感電の原因となります。

稼働中に周辺機器の取り付け・取り外し（ホットスワップ）に対応した機器の場合でも、コネクターの接点部分・回路部分にさわらないように注意して作業してください。



感電注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。

製品の取扱説明書に記載の電圧で正しくお使いください。なお、AC電源製品に付属の電源ケーブルは100V用ですご注意ください。



電圧注意

正しい配線器具を使用する

本製品に付属または取扱説明書に記載のない電源ケーブルや電源アダプター、電源コンセントの使用は火災や感電の原因となります。



正しい器具

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源ケーブル・プラグを抜く

感電の原因となります。



ケーブルを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

ケーブル類やプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーインターフェースを持つ製品をお使いの場合は、光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはいねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因となります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

はじめに

この度は、CentreCOM Secure HUB XS900MXシリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM Secure HUB XS900MXシリーズは、100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-TポートとSFP/SFP+スロット、スタックモジュールスロット、USBポートを装備した10ギガビットイーサネット・インテリジェントスイッチです。

AT-XS916MXTは、100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-Tポートを12ポートとSFP/SFP+スロットを4スロット(内2スロットはスタックモジュールスロットと兼用)、スタックモジュールスロットを2スロット、USBポートを1個装備しています。

AT-XS916MXSは、100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-Tポートを4ポートとSFP/SFP+スロットを12スロット(内2スロットはスタックモジュールスロットと兼用)、スタックモジュールスロットを2スロット、USBポートを1個装備しています。

SFP/SFP+スロットはオプション(別売)のSFP/SFP+モジュールの追加により、多様な光ポートの実装が可能です。また、2個のスタックモジュールスロット(SFP/SFP+スロットと兼用)は、バーチャルシャーシスタック(VCS)機能によるスタック接続用のポートとして使用することができます。複数のスイッチをオプション(別売)のスタックモジュールで接続することにより、仮想的に1台のスイッチとして動作させることができます。

本製品搭載のファームウェア「AlliedWare Plus (AW+)」は、各機能がモジュールとして分割されており、単一の障害が与える影響範囲を最小限に抑えることができるシステムになっています。これにより、旧来の方式の製品と比べシステム全体の可用性が格段に高まります。

また、業界標準のコマンド体系に準拠し、他社製品からの移行においても、エンジニアの教育にかかる時間と経費を大幅に削減することができます。

Telnet、コンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースはコマンドライン形式をサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良(機能拡張、不具合修正など)のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。また、ご購入時に機器にインストールされているファームウェアは最新でない場合があります。

お使いの前には、ファームウェアのバージョンをご確認いただき、最新のものに切り替えてご利用くださいますようお願いいたします。

最新のファームウェアは、弊社ホームページからご入手いただけます。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

はじめに

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っているると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
Esc	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

- AT-XS916MXT
- AT-XS916MXS

「本製品」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、AT-XS916MXTとAT-XS916MXSの2製品を意味します。

製品の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、AT-XS916MXTを使用しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
目次	9
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 概要	13
特長	13
オプション (別売)	13
1.3 各部の名称と働き	15
前面	15
背面	19
側面	20
1.4 LED表示	21
100/1000/10GBASE-TポートLED	21
SFP/SFP+スロットLED	21
ステータスLED	22
2 設置と接続	23
2.1 設置方法を確認する	24
設置するときの注意	25
2.2 19インチラックに取り付ける	26
2.3 オプションを利用して設置する	29
19インチラックマウントキットを使用する場合	29
壁設置ブラケットを使用する場合	30
スタンドキットを使用する場合	30
2.4 SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける	31
SFP/SFP+/スタックモジュールの取り付けかた	32
2.5 ネットワーク機器を接続する	36
ケーブル	36

目次

接続のしかた	38
2.6 スタック接続をする	39
用語解説	39
概要	39
対応インターフェースとケーブル	40
接続のしかた	41
2.7 コンソールを接続する	43
コンソール	43
ケーブル	43
接続のしかた	44
2.8 電源ケーブルを接続する	45
ケーブル	45
接続のしかた	45
2.9 設定の準備	47
コンソールターミナルを設定する	47
本製品を起動する	48
2.10 操作の流れ	49
3 付録	53
3.1 困ったときに	54
自己診断テストの結果を確認する	54
LED表示を確認する	55
ログを確認する	55
電源の異常検知について	57
トラブル例	57
3.2 仕様	61
コネクタ・ケーブル仕様	61
本製品の仕様	63
3.3 保証とユーザーサポート	65
保証、修理について	65
ユーザーサポート	65
サポートに必要な情報	65

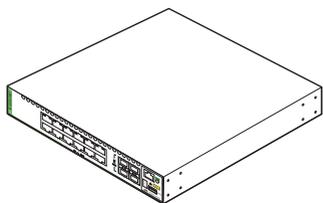
1

お使いになる前に

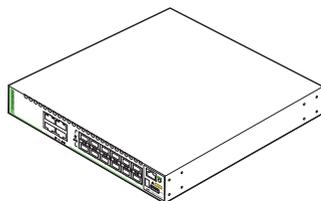
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

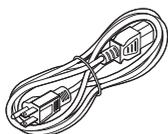


AT-XS916MXT



AT-XS916MXS

本体 いずれか1台



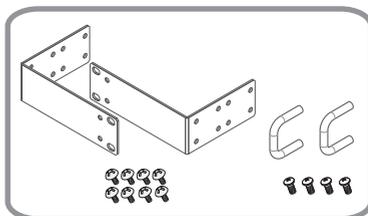
電源ケーブル(1.8m) 1本

※ 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。



電源ケーブル抜け防止フック 1個



19インチラックマウントキット 1式

- ・ブラケット 2個
- ・ブラケット用ネジ(M4×6mm トラスネジ) 8個
- ・ハンドル 2個
- ・ハンドル用ネジ(M3×6mm なべネジ) 4個



本製品をお使いの前に 1部

梱包内容 1部



英文製品情報* 1部

製品保証書 1部

シリアル番号シール 2枚

※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品がおさめられていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概要

本製品のハードウェア的な特長とオプション（別売）製品を紹介します。オプション製品のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

特長

- (AT-XS916MXT) 100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-T ポート を 12 ポート、SFP/SFP+ スロット を 4 スロット、スタックモジュールスロット を 2 スロット 装備 (SFP/SFP+ スロット と 兼用)。
- (AT-XS916MXS) 100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-T ポート を 4 ポート、SFP/SFP+ スロット を 12 スロット、スタックモジュールスロット を 2 スロット 装備 (SFP/SFP+ スロット と 兼用)。
- 100/1000/10GBASE-T ポート または スタックモジュール を 使用して、バーチャルシャーシスタック (VCS) 機能によるスタック接続が可能
- USB ポート 経由でファームウェアや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールが可能
- 本体前面の切替スイッチで、ポートのLEDを消灯させる設定が可能 (エコLED機能)
- 同梱のフックで電源ケーブルの抜けを防止
- 同梱の19インチラックマウントキットでEIA標準の19インチラックに取り付け可能

オプション（別売）

- SFPモジュールにより1000Mポートの拡張が可能
 - AT-SPTXa 1000BASE-T (RJ-45) *1
 - AT-SPTXc 1000BASE-T (RJ-45) *1
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX10a 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2連LC)

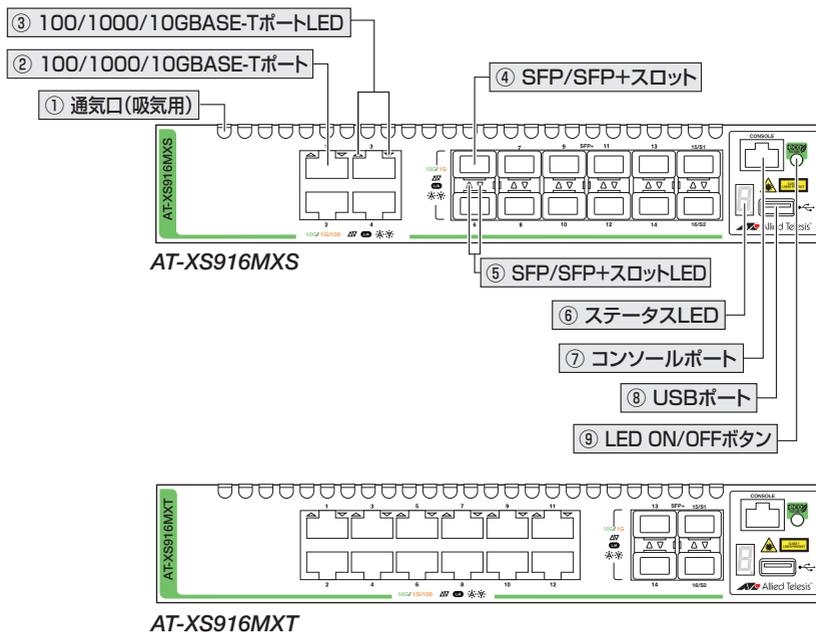
*1 AT-SPTXa、AT-SPTXcによる10/100M通信は未サポートです。
- SFP+モジュールにより10Gポートの拡張が可能
 - AT-SP10Ta 1000/10GBASE-T (RJ-45) (Rev.C以降) *2
 - AT-SP10TM 1000/2.5G/5G/10GBASE-T (RJ-45) *2
 - AT-SP10SR 10GBASE-SR (2連LC)
 - AT-SP10LR 10GBASE-LR (2連LC)
 - AT-SP10LRa/l 10GBASE-LR (2連LC)
 - AT-SP10ER40/l 10GBASE-ER (2連LC)
 - AT-SP10ER40a/l 10GBASE-ER (2連LC)
 - AT-SP10ZR80/l 10G SMF (80km) (2連LC)
 - AT-SP10TW1 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m) *3
 - AT-SP10TW3 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m) *3

1.2 概要

- ※2 AT-SP10Ta、AT-SP10TMを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です(AT-XS916MXTは最大2個、AT-XS916MXSは最大6個)。
- ※3 SFP+ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、光ファイバータイプのSFP+モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。
- 専用のスタックモジュールによりスタック接続が可能
AT-StackXS/1.0 カップースタックモジュール(1m)
- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J24
- スタンドキットで縦置きを設置が可能
AT-STND-J03
- 19インチラックマウントキットでEIA規格の19インチラックに取り付けが可能
AT-RKMT-J15
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続^{※4}
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続^{※4}
CentreCOM VT-Kit2
- 専用のRJ-45(メス)/USB変換コンソールケーブルでコンソールのUSBポートと接続^{※4}
AT-VT-Kit3
※4 コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」、「CentreCOM VT-Kit2」、または「AT-VT-Kit3」が必要です。
- L字型コネクタ電源ケーブルにより、奥行きを取らずに設置可能
AT-PWRCBL-J01L^{※5}
※5 AT-RKMT-J15使用時は使用できません。
- フィーチャーライセンスによりさらに高度な機能の追加が可能^{※6}
AT-XS900MX-FL01 プレミアムライセンス
AT-XS900MX-FL16 SES Readyライセンス
※6 対応機種やファームウェアバージョンなどの詳細については、最新のリリースノートやデータシートでご確認ください。

1.3 各部の名称と働き

前面



① 通気口(吸気用)

本製品内部に空気を取り入れるための穴です。

本製品は前面から空気を取り入れ、背面から排出します。背面側に搭載されたファンによって、本製品内部を冷却します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

② 100/1000/10GBASE-Tポート

UTP/STPケーブルを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルは100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ5以上のUTPケーブルを、10GBASE-Tの場合はカテゴリ6のUTP/STPケーブル、カテゴリ6AのSTPケーブルのいずれかを使用します。

1.3 各部の名称と働き

接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができますが、不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。



Half Duplex での通信はサポートしていません。

ヒント

 36ページ「ネットワーク機器を接続する」

③ 100/1000/10GBASE-T ポートLED

100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-T ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

○ L/A (Link/Activity)

通信速度(100Mbps, 1000Mbps, 10Gbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

ポートLEDは、LED ON/OFF ボタンによって点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。

 21ページ「LED表示」

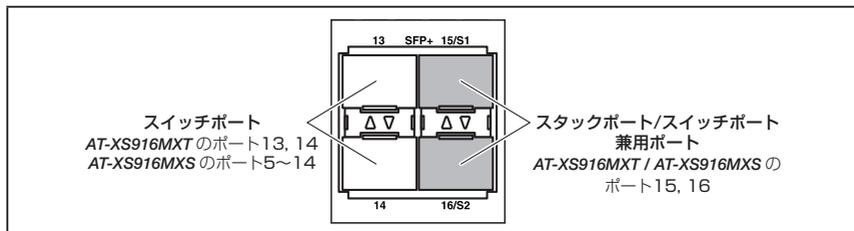
④ SFP/SFP+ スロット

オプション(別売)のSFP/SFP+モジュール(以下、SFP/SFP+と省略します)、またはスタックモジュールを装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。



注意

- ・ダストカバーは、SFP/SFP+/スタックモジュールを装着するとき以外、はずさないようにしてください。
- ・1000M/10Gでの通信のみサポートしています。10/100Mで使用することはできませんのでご注意ください。
- ・QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル「AT-QSFP-4SFP10G-3CU/AT-QSFP-4SFP10G-5CU」のSFP+側を使用することはできません。



ポート 15, 16は、スタックポートとして使うか、拡張用のスイッチポートとして使うかを選ぶことができます。

 **参照** 31 ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」

 **参照** 36 ページ「ネットワーク機器を接続する」

 **参照** 39 ページ「スタック接続をする」

⑤ SFP/SFP+ スロット LED

SFP/SFP+ ポートと接続先の機器の通信状況を表示する LED ランプです。

○ L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

SFP/SFP+ スロット LED は、LED ON/OFF ボタンによって点灯させないように設定することもできます (エコ LED 機能)。

 **参照** 21 ページ「LED 表示」

⑥ ステータス LED

本製品全体の状態を表示する 7 セグメントとドットの LED ランプです。

 **参照** 21 ページ「LED 表示」

⑦ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルはオプション (別売) のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、
「CentreCOM VT-Kit2」、または「AT-VT-Kit3」を使用してください。

 **参照** 43 ページ「コンソールを接続する」

⑧ USB ポート

USB メモリーを接続するための USB 2.0 のポートです。

ファームウェアファイルや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールに
使います。



・ ご使用の際には、お客様の使用環境で事前に検証を行ったうえで導入してください。

注意 ・ USB メモリー以外のものを接続しないでください。USB 延長ケーブルや USB ハブを介した接続は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

・ USB メモリーを長期間利用する場合は、USB メモリーの製品保証期間をご確認のうえでご
使用ください。

1.3 各部の名称と働き

⑨ LED ON/OFF ボタン

LEDの点灯・消灯を切り替えるボタンです。

LEDによる機器監視が不要なときに、LEDを消灯させることで、電力消費を抑えて省エネの効果を得ることができます(エコLED)。

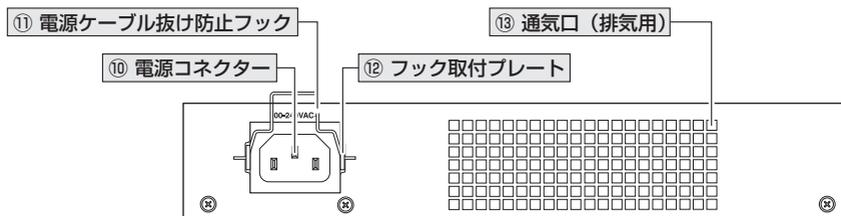
ボタンを押すと、ステータスLED(7セグメントLEDの横セグメント)を除くすべてのLEDが消灯します。

VCSによるスタック構成時には、1台のスイッチによるボタンの操作で、VCSグループの全メンバーのLED ON/OFFを制御できます。

なお、本ボタンによる点灯・消灯の切り替えは、設定ファイルには反映されません。

 21 ページ「LED表示」

背面



AT-XS916MXS / AT-XS916MXT

⑩ 電源コネクタ

電源ケーブルを接続するコネクタです。

同梱、およびオプション（別売）の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

 参照 45ページ「電源ケーブルを接続する」

⑪ 電源ケーブル抜け防止フック

電源ケーブルの抜け落ちを防止する金具です。

ご購入時には、フックは取り外された状態で同梱されています。

 参照 45ページ「電源ケーブルを接続する」

⑫ フック取付プレート

電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

 参照 45ページ「電源ケーブルを接続する」

⑬ 通気口（排気用）

本製品内部の空気を排出するための穴です。本製品は前面から空気を取り入れ、背面から排出します。背面側に搭載されたファンによって、本製品内部を冷却します。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

側面



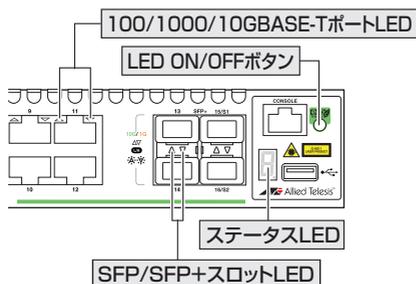
⑭ ブラケット用ネジ穴

19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。前面側と背面側の2か所にあり、どちらにでもブラケットが取り付けられます。

 26ページ「19インチラックに取り付ける」

1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDが付いています（下図はAT-XS916MXT）。



100/1000/10GBASE-T ポート LED

100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-Tポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	100Mbps/1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbps/1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによってLED OFFに設定されています。

SFP/SFP+ スロット LED

SFP/SFP+ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	SFP+を介して、10Gbpsでリンクが確立しています。
		点滅	SFP+を介して、10Gbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	SFPを介して、1000Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	SFPを介して、1000Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによってLED OFFに設定されています。

1.4 LED表示

ステータスLED

7セグメントとドットのLEDで本製品全体の状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
7セグメントを使用した表示 (本製品への電源供給と以下の内容を表します。)			
	緑	点灯	VCS機能が無効で、単体で動作しています。
	緑	点灯	VCS機能が有効で、スタックメンバーとして動作しています。数字はスタックメンバーIDを表します。*1
	緑	点灯*2	ファームウェアが起動中です。 ファンまたは内部温度に異常があります。
	緑	点灯	LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています (LED OFF設定時でも、電源供給確認のため本LEDだけは点灯します)。 横3セグメントで、以下の状態を表します。 上: スタックメンバーのマスターとして動作しています。 中: VCS機能が無効で、単体で動作しています。 下: スタックメンバーのスレーブとして動作しています。
ドットを使用した表示			
	緑	点滅	USBメモリー接続時、USBメモリーに対してファイルの書き込み/読み出しが行われています。
		点灯	USBメモリーが接続されています。
		消灯	LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています。 USBメモリーが接続されていません。
7セグメントとドットを使用した表示			
	緑	点灯	ファームウェアが起動準備中です。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

*1 ファームウェアのバージョンにより、スタック可能な最大台数など、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

*2 「F」の点灯は、VCS機能の無効を示す「0」、スタックメンバーIDを示す「1～8」のいずれかと、約1秒間ずつ交互に表示されます。



VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、底面のゴム足を使用して設置してください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷付きを防止したりします。
- ラックマウントキットによる19インチラックへの設置
- 壁設置ブラケットによる壁面への設置
- スタンドキットによる縦置きでの設置



弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。



水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめる前に、必ず4ページ「安全のために」をよくお読みください。設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。

2.2 19 インチラックに取り付ける

本製品は同梱の19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

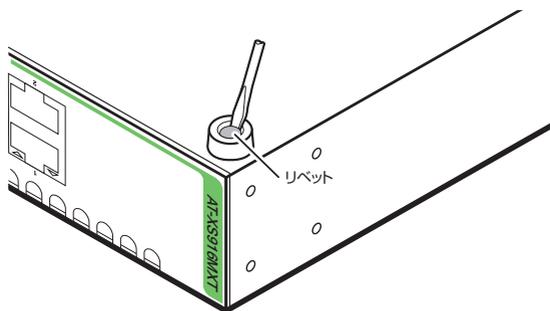
必ず下図の○の方向に設置してください。



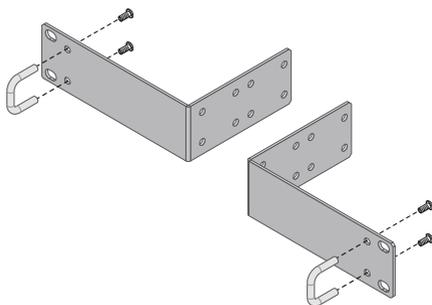
- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 本製品を19インチラックへ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

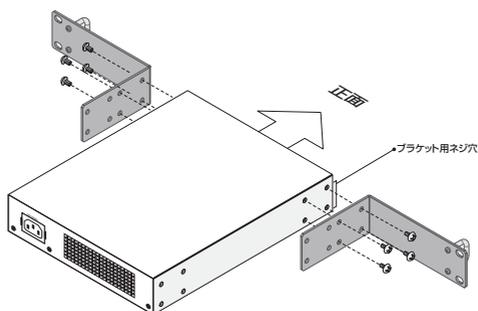
2 本体底面の四隅にリベットで止められているゴム足をはずします。
リベットの頭とゴム足の間隙に小型のマイナスドライバーを差し込み、リベットの頭をこじって頭を1～2mm抜いてください。固定が解除され、ゴム足がはずれます。



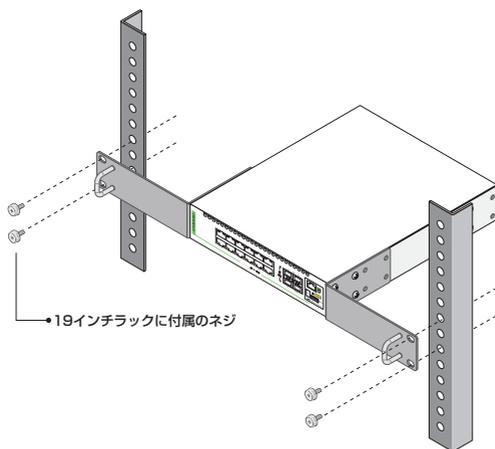
- 3** ハンドルを取り付ける場合は、同梱のM3×6mm なベネジを使用してブラケットにハンドルを取り付けます。



- 4** 同梱のM4×6mm トラスネジを使用して、本体両側面にブラケットを取り付けます。



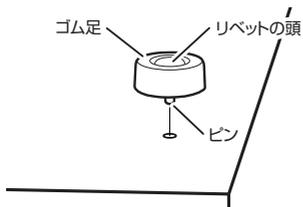
- 5** ラックに付属のネジを使用して、19インチラックに本製品を取り付けます。



2.2 19 インチラックに取り付ける

ゴム足の取り付け

1 本体底面の四隅のゴム足用穴に、ゴム足のピンを挿入します。



2 指でリベットの頭を押し込みます。リベットの先端が広がり、穴から抜けなくなります。

2.3 オプションを利用して設置する

本製品は以下のオプション（別売）を使用してEIA規格の19インチラックや壁面に取り付けることができます。取り付け方法については、各オプションに付属の取扱説明書を参照してください。ここではオプションを使用する上での注意点のみ説明します。

- ラックマウントキット「AT-RKMT-J15」を使用して19インチラックに取り付ける
- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J24」を使用して壁面に取り付ける
- スタンドキット「AT-STND-J03」を使用して縦置きに設置する

※ AT-RKMT-J15を使用する場合には、最前面から60mm 後ろに取り付けることはできません。

19インチラックマウントキットを使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。



- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・本製品をオプションの19インチラックマウントキットを使用して19インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- ・本製品へのラックマウントキットの取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- ・本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。



オプション（別売）のL字型コネクター電源ケーブルとAT-RKMT-J15は同時に使用できません。



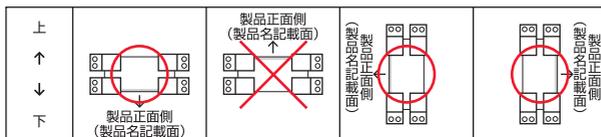
ラックマウントキットを使用する際は、本製品からゴム足を外した状態で設置してください。

2.3 オプションを利用して設置する

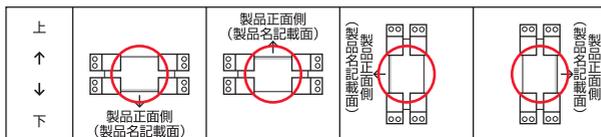
壁設置ブラケットを使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。

○ AT-XS916MXT



○ AT-XS916MXS



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。



壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足ははずした状態で設置してください。

スタンドキットを使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

スタンドキットを使用して垂直方向に設置する際は、各パーツを確実に固定してください。固定が不十分な場合、転倒などによるケガや機器破損の恐れがあります。

本製品と壁面との間にスペースを空けることなく設置する場合は、必ず本製品の底面が壁面側になる方向に設置してください。

スタンドキットの取り付けは、スタンドキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。



スタンドキットを使用して垂直方向に設置する際は、本製品からゴム足ははずした状態で設置してください。

2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

SFP/SFP+/スタックモジュールの取り付けかたを説明します。

本製品にはオプション(別売)で以下のモジュールが用意されています。

SFPモジュール	
AT-SPTXa	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPTXc	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX10a	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
SFP+モジュール	
AT-SP10Ta	1000/10GBASE-T (RJ-45) (Rev.C以降)
AT-SP10TM	1000/2.5G/5G/10GBASE-T (RJ-45)
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10LRa/l	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/l	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ER40a/l	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10ZR80/l	10G SMF (80km) (2連LC)
AT-SP10TW1	SFP+ ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-SP10TW3	SFP+ ダイレクトアタッチケーブル (3m)
スタックモジュール	
AT-StackXS/1.0	銅バースタックモジュール (1m)



・弊社販売品以外のSFP/SFP+/スタックモジュールでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。

- ・ AT-SPTXa、AT-SPTXcによる10/100M通信は未サポートです。
- ・ AT-SP10Ta、AT-SP10TMを使用する場合は、上下左右に隣接するSFP/SFP+スロットを空きスロットにしてください。全SFP/SFP+スロットのうち、半数のSFP/SFP+スロットにのみ搭載可能です (AT-XS916MXTは最大2個、AT-XS916MXSは最大6個)。
- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士での接続のみサポート対象となり、他社製品との接続はサポート対象外となります。他社製品との接続が必要な場合は、光ファイバータイプのSFP+モジュールを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。
- ・ QSFP+-4SFP+ブレイクアウトダイレクトアタッチケーブル[AT-QSFP-4SFP10G-3CU/AT-QSFP-4SFP10G-5CU]のSFP+側を使用することはできません。



・ SFP/SFP+/スタックモジュールの仕様については、SFP/SFP+/スタックモジュールに付属のインストールガイドを参照してください。

- ・ VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。
また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

SFP/SFP+/ スタックモジュールの取り付けかた



警告 ・ 静電気の放電を避けるため、各モジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。

- ・ SFP/SFP+はクラス1レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。目に傷害を被る場合があります。
- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブル、スタックモジュールを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をSFP+ダイレクトアタッチケーブル/スタックモジュールで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



注意 ・ SFP/SFP+スロット、およびコネクタのダストカバーは、SFP/SFP+/スタックモジュールを使用するとき以外、はずさないようにしてください。

- ・ SFP/SFP+/スタックモジュールを取りはずしてから再度取り付ける場合は、しばらく間をあけてください。



ヒント ・ SFP/SFP+/スタックモジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。異なる種類(型番)のモジュールへのホットスワップも可能です。

- ・ SFP/SFP+/スタックモジュールには、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。
- ・ 本製品のポート15、16は、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。CLI上で、VCS機能を有効に設定するとスタックポートに、無効に設定するとスイッチポートになります。

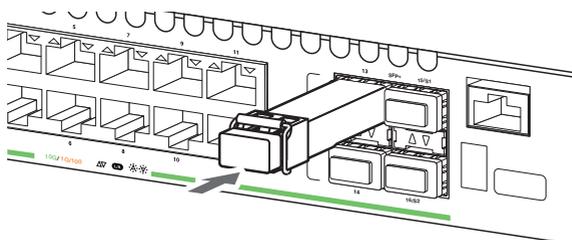
VCS機能は初期設定で有効化されています。スイッチポートとして使用する場合は、VCS機能を無効に変更してください。なお、VCS機能の有効・無効を設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

取り付け

○SFP/SFP+ モジュール

- 1 SFP/SFP+ スロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 SFP/SFP+ モジュールの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッと合まるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態で差し込んでください。

奇数番号のスロット(上段)は各モジュールを下図で示す向きに装着してください。
偶数番号のスロット(下段)では装着する向きが上下逆になります。



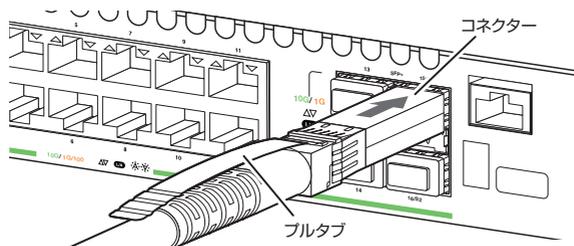
- 3 SFP/SFP+ モジュールにダストカバーが付いている場合は、ダストカバーをはずします。

2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

○SFP+ダイレクトアタッチケーブル/スタックモジュール

- 1 SFP/SFP+ スロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 スタックモジュールのコネクターの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッと合まるまで押し込みます。このとき、スタックモジュールスロットにプルタブが巻き込まれないように注意してください。

奇数番号のスロット（上段）は各モジュールを下図で示す向きに装着してください。偶数番号のスロット（下段）では装着する向きが上下逆になります。

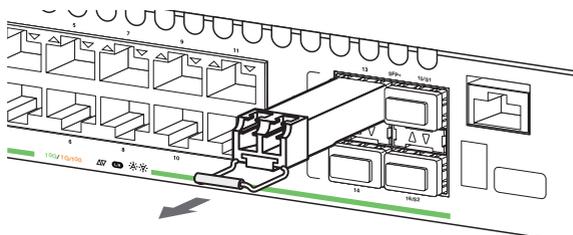


- 3 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクターを、もう1台の機器のSFP+スロットに接続します。

取りはずし

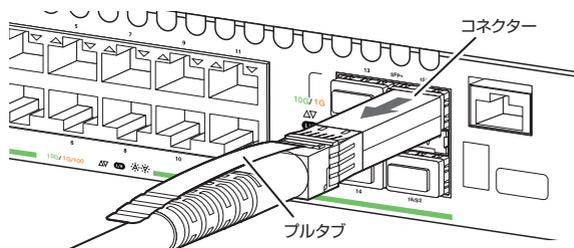
○SFP/SFP+ モジュール

- 1 各ケーブルをはずします。
- 2 ボタンが付いているタイプはボタンを押し、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げたあと、手前に引いてスロットへの固定を解除します。
- 3 SFP/SFP+ モジュールの両脇を持ってスロットから引き抜きます。



○SFP+ダイレクトアタッチケーブル/スタックモジュール

- 1 スタックモジュールのコネクター上部のプルタブを持って、SFP/SFP+スロットから手前にまっすぐ引き抜きます。
- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクターをSFP+スロットから引き抜きます。



2.5 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
100BASE-TX/1000BASE-T ・AT-XS916MXT ・AT-XS916MXS ・AT-SPTXa ^{*1} ・AT-SPTXc ^{*1}	100BASE-TX: UTP カテゴリー 5 以上 1000BASE-T: UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上	100m
10GBASE-T ・AT-XS916MXT ・AT-XS916MXS	UTP カテゴリー 6	55m ^{*2}
	STP カテゴリー 6	100m ^{*2}
	STP カテゴリー 6A	100m ^{*2}
1000/2.5G/5G/10GBASE-T ・AT-SP10TM	1000BASE-T	UTP エンハンスド・カテゴリー 5 以上
	2.5GBASE-T ^{*3}	
	5GBASE-T ^{*3}	
	10GBASE-T ^{*3}	UTP/STP カテゴリー 6A UTP/STP カテゴリー 7
1000BASE-SX ・AT-SPSX	GI 50/125 マルチモードファイバー	550m (伝送帯域 500MHz・km 時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	275m (伝送帯域 200MHz・km 時)
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPSX2	GI 50/125 マルチモードファイバー	1km
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	2km
1000BASE-LX ・AT-SPLX10 ・AT-SPLX10a	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
	GI 50/125 マルチモードファイバー ^{*4}	550m
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー ^{*4}	(伝送帯域 500MHz・km 時)
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPLX40	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
10GBASE-SR ・AT-SP10SR	GI 50/125 マルチモードファイバー	66m (伝送帯域 400MHz・km 時)
		82m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		300m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
		400m ^{*5} (伝送帯域 4700MHz・km 時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	26m (伝送帯域 160MHz・km 時)
		33m (伝送帯域 200MHz・km 時)

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10GBASE-LR ・AT-SP10LR ・AT-SP10LRa//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
10GBASE-ER ・AT-SP10ER40// ・AT-SP10ER40a//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
長距離用 10Gbps 光 ・AT-SP10ZR80//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*6}
SFP+ダイレクトアタッチケーブル		
・AT-SP10TW1		1m
・AT-SP10TW3		3m

- ※ 1 AT-SPTXa、AT-SPTXcによる10/100M通信は未サポートです。
- ※ 2 最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なります。また、隣接したケーブルや外部からのノイズの影響を低減するため、STPケーブルの使用をおすすめします。
- ※ 3 最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なります。
- ※ 4 マルチモードファイバーを使用する際には、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。
- ※ 5 ハードウェアリビジョンRev.G以降で対応しています。
- ※ 6 使用ケーブルの損失が0.25dB/km 以下、分散が20ps/nm・kmの場合です。

2.5 ネットワーク機器を接続する

接続のしかた



SFP+ダイレクトアタッチケーブルを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をSFP+ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



SFP+ダイレクトアタッチケーブルはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、31ページの「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」をご覧ください。

100/1000/10GBASE-T ポート

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

- 1 本製品の100/1000/10GBASE-TポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 2 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを接続先機器の100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-Tポートに差し込みます。



Half Duplexでの通信はサポートしていません。

光ポート

光ファイバーケーブルはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。SFP/SFP+モジュールで使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。SFP/SFP+モジュールのTXを接続先の機器のRXに、SFP/SFP+モジュールのRXを接続先の機器のTXに接続してください。

- 1 SFP/SFP+ポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器の光ポートに差し込みます。

2.6 スタック接続をする

100/1000/10GBASE-T ポートまたはオプション（別売）のスタックモジュールAT-StackXS/1.0を使用して、スタック接続をする方法について説明します。

VCSは最大2台のスイッチのポート間をケーブルで接続することにより、仮想的に1台のスイッチとして動作させる機能です。

ここでは、VCSの物理構成における、具体的な接続手順と注意事項について説明します。VCSの初期設定から運用までの流れについては、「コマンドリファレンス」をご覧ください。



VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

用語解説

本製品のVCSの説明では、以下の用語を用います。

- **スタックモジュール(カッパースタックモジュール)**
本製品のSFP/SFP+ポートで使用できるオプション（別売）のカッパースタックモジュール「AT-StackXS/1.0」のことを、「スタックモジュール」と呼びます。
- **VCSグループ、スタックメンバー**
VCS機能によって作られる仮想的なスイッチを「VCSグループ」と呼びます。
VCSグループを構成する2台のスイッチを「スタックメンバー」と呼びます。
- **スタックリンク、スタックポート**
スタック接続に使用するポートを「スタックポート」と呼びます。
2台のスタックメンバー間の接続を「スタックリンク」と呼びます。スタックリンクは、複数のスタックポートから構成されることもあり、たとえば、通信速度10GbpsのSFP+を2ポート使用して、20Gbpsの帯域幅を持つ1本のスタックリンクとして取り扱うことができます。

概要

本製品のVCSのおもな仕様は以下のとおりです。

- **スタック台数 (VCSグループあたり)**
2台 (マスター1台、スレーブ1台)
- **スタック接続に使用できるポート**
100/1000/10GBASE-Tポート
SFP/SFP+ポート (スタックモジュール使用時)
- **スタックポート数 (メンバーあたり)**
2ポート

2.6 スタック接続をする

- 同一VCSグループを構成可能なスタックメンバー（機器）の組み合わせ
AT-XS916MXT
AT-XS916MXS
- スイッチポートをスタックポートとして使用
初期設定ではSFP/SFP+スロットのポート15, 16がスタックポートとして設定されています。100/1000/10GBASE-Tポートをスタックポートとして使用する場合は、CLI上でSFP/SFP+スロットのVCS無効化やスタック接続を行うポートの設定などを行う必要があります。コマンドリファレンスの「バーチャルシャーシスタック (VCS) / 導入 / スイッチポートをスタックポートとして使用する」をご覧ください、設定後に接続を行ってください。
- スタックメンバー間の配線
VCSグループ内では、すべてのスタックリンクの帯域幅、および、メンバー間で使用するポートの数を統一する必要がありますが、使用するポート番号に指定はありません。異なる番号のポート同士、同じ番号のポート同士、いずれの組み合わせでも接続可能です。
- VCSグループの接続構成
1つのVCSグループ内で、SFP/SFP+スロットと100/1000/10GBASE-Tポートを1ポートずつ使用する構成や、SFP/SFP+スロットで異なるスタックモジュールを使用した構成はサポートしていません。
スタックポートは、SFP/SFP+スロット×2ポート（初期設定）もしくは100/1000/10GBASE-Tポート×2ポートで構成してください。
また、SFP/SFP+スロットを使用する場合は同一のスタックモジュールを使用してください。
- レジリエンシーリンク
レジリエンシーリンクとは、ヘルスチェックメッセージの送受信によって状態確認を行うための予備リンクです。レジリエンシーリンクは、任意のスイッチポート1ポートをレジリエンシーリンクに設定し、適切なケーブルで接続します。
本製品では、レジリエンシーリンクの使用は必須となります。

対応インターフェースとケーブル

スタックポートとして使用可能なモジュールとポート、および使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
SFP/SFP+スロット		
10Gカッパースタックモジュール		
AT-StackXS/1.0		1m
100/1000/10GBASE-Tポート		
100/1000/10GBASE-Tポート		
—	UTPエンハンスト・カテゴリー5以上	100m

なお、スタックモジュールの取り付けかたや注意事項、ケーブルの接続のしかたについては、下記をご覧ください。

 31 ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」

接続のしかた

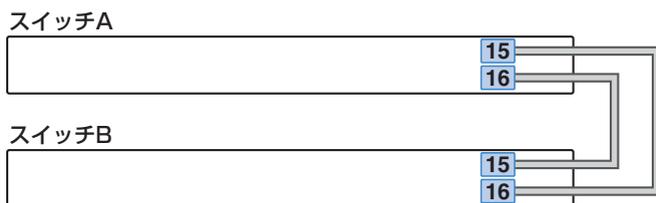
本製品のポート 15, 16 を使用して、本製品を 2 台スタック接続をする例を説明します。ポート 15, 16 以外のポートを使用する場合は、接続の前に CLI 上でスタックポートの設定変更が必要になります。コマンドリファレンスの「バーチャルシャーシスタック (VCS)」を参照して、設定変更後に接続を行ってください。

- 1 スタックメンバーとなるスイッチを用意したら、最初に各スイッチを単体で起動し、以下の作業を行ってください。
 - ・ ファームウェアバージョンの確認と統一
 - ・ スタートアップコンフィグの確認とバックアップ
 - ・ スタートアップコンフィグの保存
 - ・ フィーチャーライセンスの確認と統一
- 2 手順 1 の初期設定が完了したら、各スイッチの電源を切ります。
- 3 各スイッチにスタックモジュールを取り付けます。

 31 ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」

- 4 各スイッチを適切なケーブルで接続し、スタックリンクを形成します。

 36 ページ「ネットワーク機器を接続する」



- 5 スタックメンバーの接続が完了したら、各スイッチに同時に電源を入れます。
- 6 LED 表示を確認します。

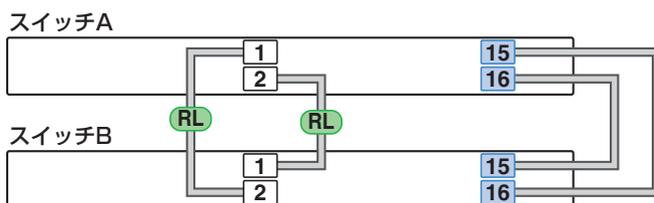
各メンバーは、起動後にメッセージを交換してマスターを選出し、必要に応じて ID の再割り当てを行います。各スイッチのステータス LED (7 セグメント LED) で、スタックメンバー ID が重複なく点灯していることを確認してください。また、使用しているポートの L/A LED が緑に点灯していることを確認してください。

なお、LED ON/OFF ボタンによって LED OFF (エコ LED) に設定することで、ステータス LED の横 3 セグメントに、マスターであれば上側のライン "—"、スレーブであれば下側のライン "—" が点灯します。

 21 ページ「LED 表示」

2.6 スタック接続をする

- 7 LED表示に問題がなければVCSグループの起動は完了です。
- 8 VCSグループが起動したら、必要に応じてVCSグループの初期設定を行います。また、任意のスイッチポートをレジリエンシーリンクに設定してください。
- 9 レジリエンシーリンク用に設定した各メンバーのポート同士を適切なケーブルで接続します。接続順序は任意ですが、ここでは、わかりやすいようにスタックリンクと同じ構成にしています。



レジリエンシーリンクに冗長性を持たせ、耐障害性を高めるため、通常は各メンバー 2 ポートずつをレジリエンシーリンク用に設定し、イーサネットケーブルをリング状に接続することをおすすめします。

ただし、メンバー 2 台で VCS グループを構成するときは、各メンバー 1 ポートずつをレジリエンシーリンク用に設定して、1 本のケーブルで接続してもかまいません。

2.7 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。

本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、47ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3をご使用ください。

○ CentreCOM VT-Kit2 plus: マネージメントケーブルキット

以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・D-Sub 9ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート（D-Sub 9ピン）またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

○ CentreCOM VT-Kit2: RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

○ AT-VT-Kit3: RJ-45(メス)/USB変換コンソールケーブル

UTPケーブル(別売)を接続して、ご使用のコンソールのUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

2.7 コンソールを接続する

接続のしかた

1 CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2

本製品のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ-45コネクター側を接続します。

AT-VT-Kit3

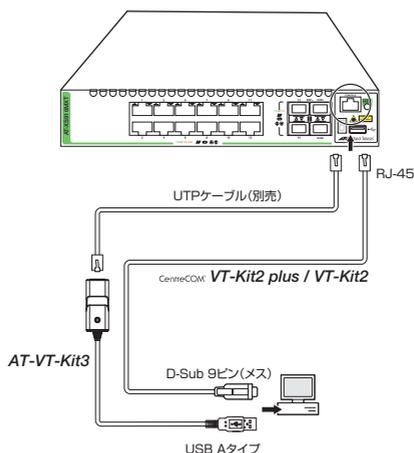
本製品のコンソールポートにUTPケーブル(別売)のRJ-45コネクター側を接続します。

2 CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2

コンソールケーブルのD-Subコネクター側をコンソールのシリアルポートに接続します。

AT-VT-Kit3

UTPケーブル(別売)のもう一方をAT-VT-Kit3のRJ-45ポートに接続し、USB AタイプコネクターをコンピュータのUSBポートに接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plusまたはCentreCOM VT-Kit2をお使いの場合、ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン(オス)以外の場合は、別途変換コネクターを用意してください。

2.8 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

ケーブル

本製品では、次の電源ケーブルを使用できます。

- 同梱の電源ケーブル (AC100V用)
- オプション (別売) のL字型コネクター電源ケーブル (AC100V用)
AT-PWRCBL-J01L



同梱、およびオプション (別売) の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



・ オプション (別売) のL字型コネクター電源ケーブルと同梱の電源ケーブル抜け防止フックは同時に使用できません (L字型コネクター電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです)。

・ オプション (別売) のL字型コネクター電源ケーブルとAT-RKMT-J15は同時に使用できません。

接続のしかた



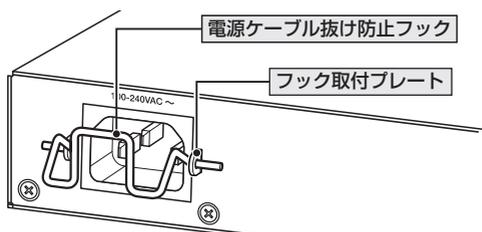
・ 同梱、またはオプション (別売) の接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。

・ 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。



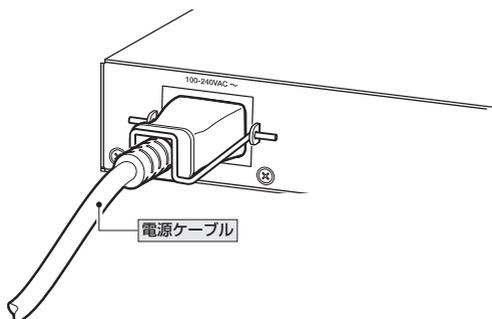
電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間を空けてください。

- 1 同梱の電源ケーブル抜け防止フックを電源コネクターのフック取付プレートに取り付けます。

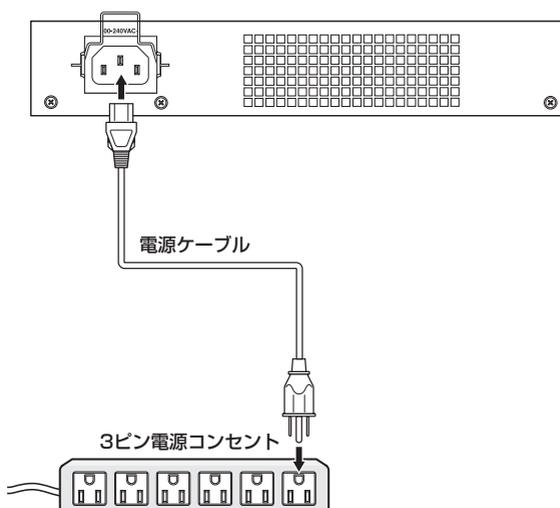


2.8 電源ケーブルを接続する

- 2 電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 3 電源ケーブル抜け防止フックで電源ケーブルが抜けないようにロックします。



- 4 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。



- 5 電源が入ると、ステータス(7セグメント)LEDが点灯します。
ファームウェア起動準備中に「8.」、ファームウェア起動中に「F」が点灯したあと、初期設定の状態では本製品を単体で起動した場合は、起動後「1」が点灯します。初期設定でVCS機能は有効化されており、スタックメンバーIDとして「1」が割り当てられます。

 参照 21ページ「LED表示」

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。

2.9 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、管理用端末から本製品の管理機構であるコマンドラインインターフェース (CLI) にアクセスして行います。

管理用端末には、次のいずれかを使用します。

- コンソールポートに接続したコンソールターミナル
- ネットワーク上のTelnetクライアント
- ネットワーク上のSecure Shell (SSH) クライアント

コンソールターミナル (通信ソフトウェア) に設定するパラメーターは次のとおりです。「エミュレーション」、「BackSpace キーの送信方法」は edit コマンド (特権 EXEC モード) のための設定です。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア (RTS/CTS)
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Delete



Telnet/SSHを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品にIPアドレスなどを設定しておく必要があります。本製品のご購入時にはIPアドレスが設定されていないため、必ず一度はコンソールターミナルからログインすることとなります。

また、SSHを使用する場合は、本製品のSSHサーバーを有効化するための設定も必要です。SSHサーバーの設定については「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 [51 ページ「 IP インターフェースを作成する](#)」

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / Secure Shell](#)

2.10 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理 / システム」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理 / システム」を参照してください。

ファームウェアの更新手順についても「運用・管理 / システム」に説明があります。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ファームウェアの更新手順](#)

STEP 1 コンソールを接続する

コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3) で、本製品のコンソールポートとコンソールのUSBポートまたはシリアルポートを接続します。

 [43ページ「コンソールを接続する」](#)



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 [47ページ「コンソールターミナルを設定する」](#)



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名、パスワードは大文字小文字を区別します。

```
awplus login: manager      ...「manager」と入力して [Enter]キーを押します。
```

```
Password: friend          ...「friend」と入力して [Enter]キーを押します。
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン](#)



STEP 4 設定をはじめめる (コマンドモード)

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。
本製品のコマンドラインインターフェースには「コマンドモード」の概念があります。各コマンドはあらかじめ決められたモードでしか実行できないため、コマンドを実行するときは適切なモードに移動し、それからコマンドを入力することになります。

ログイン直後は「**非特権 EXEC モード**」です。

```
awplus login: manager [Enter]  
Password: friend [Enter] (実際には表示されません)
```

```
AlliedWare Plus (TM) 5.4.6 16/05/27 18:28:38  
awplus>
```

コマンドプロンプト末尾の「>」が、非特権EXECモードであることを示しています。

2.10 操作の流れ



非特権 EXEC モードでは、原則として情報表示コマンド (show xxxx) の一部しか実行できません。

- 非特権 EXEC モードで enable コマンドを実行すると、「**特権 EXEC モード**」に移動します。

```
awplus> enable [Enter]
awplus#
```

コマンドプロンプト末尾の「#」が、特権 EXEC モードであることを示しています。特権 EXEC モードでは、すべての情報表示コマンド (show xxxx) が実行できるほか、システムの再起動や設定保存、ファイル操作など、様々な「実行コマンド」(コマンドの効果がその場かぎりであるコマンド。ネットワーク機器としての動作を変更する「設定コマンド」と対比してこう言う)を実行することができます。

- 特権 EXEC モードで configure terminal コマンドを実行すると、「**グローバルコンフィグモード**」に移動します。

```
awplus# configure terminal [Enter]
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
awplus(config)#
```

コマンドプロンプト末尾の「(config)#」が、グローバルコンフィグモードであることを示しています。

グローバルコンフィグモードは、システム全体にかかわる設定コマンドを実行するためのモードです。本解説編においては、ログインパスワードの変更やホスト名の設定、タイムゾーンの設定などをこのモードで行います。

実際には、ここに示した3つのほかにも多くのコマンドモードがあります。詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード](#)



STEP 5 各種設定を行う (コマンド入力例)

以下にコマンドの入力例を示します。

- **ユーザーアカウントを作成する** (グローバルコンフィグモード)
権限レベル15のユーザー「zein」を作成する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username zein privilege 15 password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / ユーザー認証 / ユーザーアカウントの管理](#)

- **ログインパスワードを変更する** (グローバルコンフィグモード)
ログイン後、manager アカウントのパスワードを変更する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username manager password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更](#)



○ **ホスト名を設定する** (グローバルコンフィグモード)

ホスト名として「myswitch」を設定する。

```
awplus(config)# hostname myswitch   
myswitch(config)#
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「awplus」から「myswitch」に変更されません。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ホスト名の設定

○ **IP インターフェースを作成する**

vlan1 に IP アドレス 192.168.10.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface vlan1   
myswitch(config-if)# ip address 192.168.10.1/24 
```

 **参照** コマンドリファレンス / IPルーティング / IPインターフェース

デフォルトゲートウェイとして 192.168.10.5 を設定する。

```
myswitch(config-if)# exit   
myswitch(config)# ip route 0.0.0.0/0 192.168.10.5 
```

 **参照** コマンドリファレンス / IPルーティング / 経路制御

○ **システム時刻を設定する**

本製品は電池によってバックアップされる時計 (リアルタイムクロック) を内蔵しており、起動時には内蔵時計から現在時刻を取得してシステム時刻が再現されます。

ログなどの記録日時を正確に保つため、システム時刻は正確に合わせて運用することをおすすめします。

タイムゾーンを日本標準時 (JST、UTC より 9 時間進んでいる) に設定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch(config)# clock timezone JST plus 9 
```

システム時刻 (日付と時刻) を「2014 年 10 月 12 日 17 時 5 分 0 秒」に設定する (特権 EXEC モード)。

```
myswitch(config)# exit   
myswitch# clock set 17:05:00 12 Oct 2014 
```

NTP を利用して時刻を自動調整する場合は、NTP サーバーの設定をします。

NTP サーバーの IP アドレスを指定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch# configure terminal   
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
myswitch(config)# ntp server 192.168.10.2   
Translating "192.168.10.2"... [OK]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定



2.10 操作の流れ

STEP 6 設定を保存する

設定した内容を保存します。

ランニングコンフィグ(現在の設定内容)をスタートアップコンフィグ(起動時コンフィグ)にコピーして保存します。

copy コマンドの代わりに write file コマンドや write memory コマンドを使うこともできます。

```
myswitch# copy running-config startup-config [Enter]
```

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / 設定の保存



STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
myswitch# exit [Enter]
```

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード

3

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。

モジュールごとに、下記の3つステータスで結果が表示されます。

OK	該当のモジュールが正常にロードされました
INFO	該当のモジュールでエラーが発生しています。ただし、本製品の動作は可能な状態です
ERROR	該当のモジュールでエラーが発生し、本製品の動作に影響がでる可能性があります

上記以外に、特定の情報がINFOまたはERRORで起動メッセージ内に表示される場合もあります。



起動メッセージは、本製品にTelnetでログインしているときは表示されません。

ヒント

LED 表示を確認する

LEDの状態を観察してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 21 ページ「LED 表示」

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。メモリーに保存されているログ、すなわち、bufferedログ (RAM上に保存されたログ) と permanent ログ (フラッシュメモリーに保存されたログ) の内容を見るには、それぞれ特権 EXEC モードの show log コマンド、show log permanent コマンドを使います。



これらのコマンドは、グローバルコンフィグモードでも実行可能です。

ヒント

```
awplus# show log 

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]:<message>
-----
2014 Apr 17 14:20:50 kern.err awplus kernel: mtdoops: mtd device (mtddev=name/number) must be supplied
2014 Apr 17 14:20:50 kern.notice awplus kernel: number of CFI chips: 1
2014 Apr 17 14:20:50 kern.notice awplus kernel: Bridge firewalling registered
2014 Apr 17 14:20:51 kern.notice awplus kernel: RAMDISK: squashfs filesystem found at block 0
2014 Apr 17 14:21:01 user.notice awplus-1 POEHW[859]: event_psu_send: early return
2014 Apr 17 14:21:32 daemon.notice awplus-1 rpc.statd[1661]: Version 1.2.5 starting
2014 Apr 17 14:21:32 daemon.notice awplus-1 rpc.statd[1661]: Initializing NSM state
2014 Apr 17 14:21:32 daemon.notice awplus-1 rpc.statd[1666]: Version 1.2.5 starting
2014 Apr 17 14:21:32 daemon.notice awplus-1 rpc.mountd[1681]: Version 1.2.5 starting
2014 Apr 17 14:21:51 user.alert awplus-1 VCS[935]: No neighboring members found, unit may be in a standalone configuration
2014 Apr 17 14:21:51 user.alert awplus-1 VCS[935]: Startup speed can be improved by adding 'no stack 1 enable' to configuration
awplus#
awplus#
```

3.1 困ったときに

本製品が生成するログメッセージは次の各フィールドで構成されています。

```
<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]: <message>
```

各フィールドの意味は次のとおりです。

フィールド名	説明
date	メッセージの生成日付
time	メッセージの生成時刻
facility	ファシリティ。どの機能グループに関連するメッセージかを示す(別表を参照)
severity	ログレベル。メッセージの重大さを示す(別表を参照)
program[pid]	メッセージを生成したプログラムの名前とプロセスID (PID)
message	メッセージ本文

ファシリティ (facility) には次のものがあります。

名称	説明
auth	認証サブシステム
authpriv	認証サブシステム (機密性の高いもの)
cron	定期実行デーモン (crond)
daemon	システムデーモン
ftp	ファイル転送サブシステム
kern	カーネル
lpr	プリンタースプラーサブシステム
mail	メールサブシステム
news	ネットニュースサブシステム
syslog	syslog デーモン (syslogd)
user	ユーザープロセス
uucp	UUCPサブシステム

ログレベル (severity) には次のものがあります。

各レベルには番号と名称が付けられており、番号は小さいほど重大であることを示します。

数字	名称	説明
0	emergencies	システムが使用不能であることを示す
1	alerts	ただちに対処を要する状況であることを示す
2	critical	重大な問題が発生したことを示す
3	errors	一般的なエラーメッセージ
4	warnings	警告メッセージ
5	notices	エラーではないが、管理者の注意を要するかもしれないメッセージ
6	informational	通常運用における詳細情報
7	debugging	きわめて詳細な情報

電源の異常検知について

電源の異常を示すログやSNMPトラップが一時的に出力されても、復旧を示すログやトラップが出力されていれば製品の異常ではありません。

電源エラーに関するログやトラップが出力され続けたり、show system environment上で異常の状態が恒常的に継続する場合は製品の故障である可能性がありますので65ページ 弊社修理受付窓口へご連絡ください。

例えば、電源の瞬断が発生すると以下のログやトラップが出力されますが、その後、show system environmentで正常状態を示していれば問題ありません。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">- Fault: Alarm asserted. Yes.- Fault: Alarm cleared. No. |
|---|

トラブル例

電源ケーブルを接続してもステータス(7セグメント)LEDが点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

同梱、およびオプション(別売)の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

ステータス(7セグメント)LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにしたあと、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもL/A LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

接続先の機器のネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

speedコマンドおよびduplexコマンド(インターフェースモード)でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

3.1 困ったときに

(100/1000/10GBASE-Tポート)正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上、10GBASE-Tの場合はカテゴリ 6のUTP/STPケーブル、カテゴリ 6AのSTPケーブルのいずれかを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。不要なトラブルを避けるため、ストレートタイプを使用することをおすすめします。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は、100BASE-TX/1000BASE-Tの場合は最大100m、10GBASE-Tの場合はUTPカテゴリ 6は最大55m、STPカテゴリ 6とSTPカテゴリ 6Aは最大100mと規定されています。ただし、最大伝送距離は理論値であり、実際の伝送距離は使用環境によって異なりますので、ご注意ください。

参照 36ページ「ネットワーク機器を接続する」

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

○ 光ファイバーケーブルのタイプ

マルチモードファイバーの場合は、コア/クラッド径が50/125 μm 、または62.5/125 μm のものを使用してください。

シングルモードファイバーの場合は、ITU-T G.652準拠のものを使用してください。SFP/SFP+の種類によって、使用する光ファイバーが異なります。マルチモードファイバーが使用できるのは、AT-SPSX、AT-SPSX2、AT-SP10SRはLCコネクタが装着されたマルチモードファイバーを、AT-SPLX40、AT-SP10LR、AT-SP10LRa/I、AT-SP10ER40/I、AT-SP10ER40a/I、AT-SP10ZR80/IはLCコネクタが装着されたシングルモードファイバーを使用してください。

AT-SPLX10、AT-SPLX10aはマルチモードファイバーとシングルモードファイバーを使用できます。なお、AT-SPLX10、AT-SPLX10aの接続にマルチモードファイバーを使用する場合は、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。

また、AT-SPLX40、AT-SP10ER40/I、AT-SP10ER40a/I、AT-SP10ZR80/Iは、使用環境によっては、アッテネーターが必要となる場合があります。

○ 光ファイバーケーブルの長さ

最大伝送距離は、36ページ「ネットワーク機器を接続する」でご確認ください。光ファイバーケーブルの仕様や使用環境によって伝送距離が異なりますので、ご注意ください。

○ 光ファイバーケーブルは正しく接続されていますか

SFP/SFP+で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

 36ページ「ネットワーク機器を接続する」

エコLEDに設定されていませんか

本体前面LED ON/OFFボタンの設定を確認してください。LED OFFに設定すると、ステータスLED (7セグメントLEDの横セグメント) を除くすべてのLEDが消灯します。

 21ページ「LED表示」

L/A LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

show interfaceコマンド (非特権EXECモード) でポートステータス (administrative state) を確認してください。

無効に設定されているポートを有効化するには、shutdownコマンド (インターフェイスモード) をno形式で実行してください。

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、CentreCOM VT-Kit2、またはAT-VT-Kit3を使用してください。

CentreCOM VT-Kit2 plusおよびCentreCOM VT-Kit2は、シリアルポートへの接続が可能です。ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン (オス) 以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

CentreCOM VT-Kit2 plusおよびAT-VT-Kit3は、USBポートへの接続が可能です。USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

 43ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容 (通信条件) は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9600bpsです。

3.1 困ったときに

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。
COMポートの設定が9600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では[Alt]キーを押し
ながら[全角/半角]キーを押して入力モードの切り替えを行います。

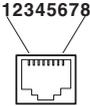
3.2 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクタ・ケーブル仕様

100BASE-TX/1000BASE-T/10GBASE-T インターフェース

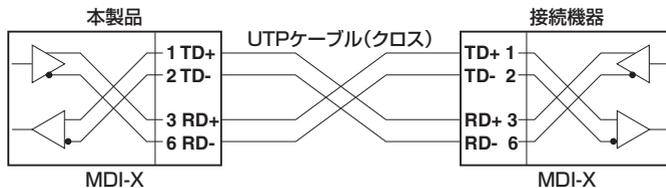
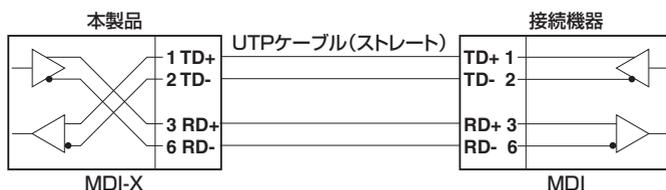
RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



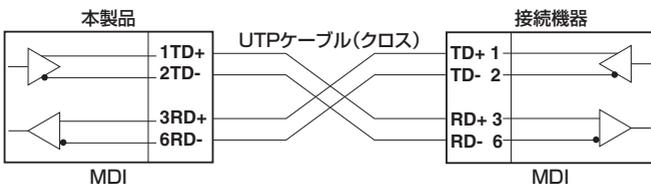
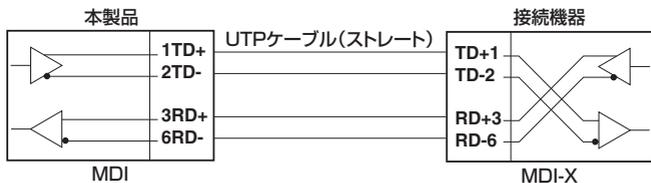
コンタクト	1000BASE-T 10GBASE-T		100BASE-TX	
	MDI	MDI-X	MDI信号	MDI-X信号
1	BI_DA +	BI_DB +	TD + (送信)	RD + (受信)
2	BI_DA -	BI_DB -	TD - (送信)	RD - (受信)
3	BI_DB +	BI_DA +	RD + (受信)	TD + (送信)
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)	TD - (送信)
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用	未使用

UTPケーブルの結線は下図のとおりです。

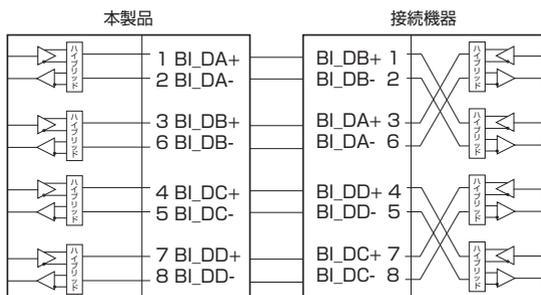
○ 100BASE-TX



3.2 仕様

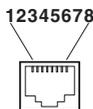


○1000BASE-T/10GBASE-T



RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

USB インターフェース

USB 2.0のタイプA(メス)コネクタを使用しています。

本製品の仕様

準拠規格		
	IEEE 802.3u 100BASE-TX, IEEE 802.3z 1000BASE-LX/SX ^{*1} , IEEE 802.3ab 1000BASE-T, IEEE 802.3bz 2.5GBASE-T/5GBASE-T ^{*1} , IEEE 802.3ae 10GBASE-LR/SR/ER ^{*1} , IEEE 802.3an 10GBASE-T, IEEE 802.3x Flow Control, IEEE 802.3az Energy-Efficient Ethernet ^{*2} , IEEE 802.1D-2004 Spanning Tree, Rapid Spanning Tree ^{*3} , IEEE 802.1Q-2005 VLAN Tagging, Multiple Spanning Tree ^{*4} , IEEE 802.1X Port Based Network Access Control, IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol IEEE 802.1AX-2008 Link Aggregation (static and dynamic) IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol ^{*5}	
適合規格^{*6}		
CE		
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1	
EMI規格	VCCIクラスA	
EU RoHS 指令		
電源部		
—	AT-XS916MXT	AT-XS916MXS
定格入力電圧	AC100-240V	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90-260V	AC90-260V
定格周波数	50/60Hz	50/60Hz
定格入力電流	1.0A	1.0A
最大入力電流(実測値)	0.90A ^{*7}	1.3A ^{*8}
平均消費電力	67W(最大 81W) ^{*7}	49W(最大 62W) ^{*8}
平均発熱量	250kJ/h(最大 300kJ/h) ^{*7}	180kJ/h(最大 230kJ/h) ^{*8}
環境条件		
保管時温度	-25～70℃	
保管時湿度	95%以下(結露なきこと)	
動作時温度	0～50℃	
動作時湿度	90%以下(結露なきこと)	
外形寸法		
—	210(W) x 320(D) x 42.5(H) mm (突起部含まず)	
質量		
—	2.7kg	
スイッチング方式		
—	ストア&フォワード	
MACアドレス登録数		
—	16K	
メモリー容量		
フラッシュメモリー	128MByte	
メインメモリー	1GByte	
USBポート		
コネクタ	タイプA(メス)	
USB	USB2.0	

3.2 仕様

サポートするMIB	
	MIB II (RFC1213) IP フォワーディングテーブルMIB (RFC2096) 拡張ブリッジMIB (RFC2674) *9 RMON MIB (RFC2819 [1,2,3,9グループ]) インターフェース拡張グループMIB (RFC2863) SNMPv3 MIB (RFC3411~RFC3415) SNMPv2 MIB (RFC3418) イーサネットMIB (RFC3635) 802.3 MAU MIB (RFC3636) ブリッジMIB (RFC4188) RSTP MIB (RFC4318) DISMAN ping MIB (RFC4560) エンティティ MIB (RFC6933) LLDP MIB (IEEE 802.1AB) LLDP-MED MIB (ANSI/TIA-1057) プライベートMIB

- ※1 対応SFPモジュール使用時
- ※2 100/1000/10GBASE-Tポートのみ
- ※3 IEEE 802.1w Rapid Spanning Treeを含む
- ※4 IEEE 802.1s Multiple Spanning Treeを含む
- ※5 IEEE 802.3adと同等
- ※6 当該製品においては「中国版RoHS指令 (China RoHS)」で求められるEnvironment Friendly Use Period (EFUP) ラベル等を記載している場合がありますが、日本国内での使用および日本から中国を含む海外へ輸出した場合も含め、弊社では未サポートとさせていただきます。証明書等の発行も原則として行いません。
- ※7 測定条件：全ポート接続時 (10G × 12ポートとSFP+ (AT-SP10ZR80/I) × 4ポート)
- ※8 測定条件：全ポート接続時 (10G × 4ポートとSFP+ (AT-SP10ZR80/I) × 12ポート)
- ※9 Q-BRIDGE-MIBのみサポート

3.3 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/repair/>

Tel: ☎️ 0120-860332

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6218

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/info/>

Tel: ☎️ 0120-860772

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6203

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

- サポートの依頼日
- お客様の会社、ご担当者

3.3 保証とユーザーサポート

- **ご連絡先**
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。
- **ご購入先**

2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号 (S/N)、リビジョン (Rev) をお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている (製品に同梱されている) シリアル番号シールに記載されています。

(例)  S/N 007807G104000001 A1

S/N以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始まる文字列 (上記例の「A1」部分) がリビジョンです。

- ファームウェアバージョンをお知らせください。
ファームウェアバージョンは、show system (非特権EXECモード) コマンドで表示されるシステム情報の「Software version」の項で確認できます。
- オプション (別売) 製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできるだけ具体的に (再現できるように) お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください (パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2016-2023 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出しまたは「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2016年 6月	Rev.A	初版
2018年 5月	Rev.B	AT-SP10ZR80/l、AT-SP10TW3対応。誤記訂正
2018年 10月	Rev.C	誤記訂正
2023年 4月	Rev.D	AT-SPTXc、AT-SPLX10a、AT-SP10Ta、AT-SP10TM、AT-SP10LRa/l、AT-SP10ER40a/l、AT-STND-J03、AT-VT-Kit3対応。

